

各部科別に四報國團

團長の衆議統裁制採用



(行駛回一日十二月母)

哲安田行山吹同

大西同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

十五年、絶半世
賢意を表す
まごもな

國民の民族構成であつて、臺灣住民の人口權は、臺灣住民の人口權であり、その三は、事實上ある。これら等の内地人は、大部分臺灣、臺北、新竹、臺南、嘉義、臺南、高雄、屏東と、中南部都市をつなぐ鐵道により離れ、臺灣に封鎖された時代の遺風を残すものである。それで、僅に三十萬人に過ぎない島人も、行はなかつた。

る本島人がつてゐる
心理である。これら
こそで取上げようとする
は、第三のものであら
い。
沿岸に駐在してゐる一縣
の職員が内田の人口分布に
たいして鋭切な形容詞である
一步陸地に入れば、何れの山
に連れてかねて海岸に立つ
る文那に
その次
對する

の事のたまには、単單
前にも、たゞ一回、
誰かがあつた。
（一）
は、明るい、元氣のいい、
本質人、然然と、内
推人の事には、「那部」
と思はね言葉で、高らかに
語つてゐる。

して認める。種類住
は人である。リト内に高
東洋人種とな
黄色人種となり人
種は人種で、多
くは山地帶に住んで、なか
なか一晩旅行者の間に
れ離はばれ、離婚生活をし
てゐる。北洋道のアムス族
君臨する。した
しての臺灣
ただ

貴婦とか風俗嬢はいな いからやるんだ	相場が高ぶるが、何分も絶 對がめのもので、近づけられ ては仕事だ	あるが、いいに決ま るが、たるる
共通で禁煙をする社會	内地人化する眞理	ある
いぢやね。	内地人化	

「大和民族として
通人である、内地人
と同じ生活をつけたる
ものであつて、大和民族
の精神を内構せん。益
はついてゐる。
そで、人口の點から見ると
農業は、漁業當時は勿論、現
在は、本島民の漁業と
言ははねらはねよつて、か
らだれせぬ。

これがと關
する人口構成は将来恐々強化
されることはあつても、變更
する餘地はない。
（四）……
に依る意

「日本人はなれないと生
きられない」といふのは、
高麗族の「新ふる」の言葉で、
朝鮮半島では「めだたせ牛生
育」といふ。日本では「牛生
育」といふが、これは「牛生
育」の本音だけは今日まで、一
般化して、昔からそのまま使
用するやうである。勿論、
眞なる「牛育」として、机上の
事案では、必ずしも「牛生
育」は本島と謂ふべきであ
る。日本語の「牛育」の本音
の事案では、本島と謂ふべき
と言ふのを、かれると

は現生の爲政者の方針と
異る政治的の眞義を、思ひづく
こゝから出来た一語ではない
例へば、震驚を我が御有前の
少す。この御有前は、活で渡民
めす。まことに、本島人に於て
間むけにいる。」

年終には、隣接した複数のやうに山地を
またその山の高齢部は、
島人全般が現に實踐し
てゐる社會生活を國家生活に
一致させた據性であらう。
して久し

民族と世界
は、他をい
ふて、血口は辱も
同化されねば國民的
第一義の敵はあるべ
好である。この意味

基義は、同一政治のも
とにける國民民族化の一
體的である。

かくの如きは、
する住民の人々は、
して均衡を失つてゐる。
に懸念政治の脇みがある
議會は、今や戰時議會一色に
塗りつぶされた感がある。し
危局に

の十全の計略をもつて、その戦略を実行する。しかし我々はこの戰時講習會たる點と實業講習會の意義とを混同してはならない。それは今は全國に於ける二つの不同的な講習會である。従つて異った意義をもつものである。

太平洋の風浪高き一觸即發の危機を前にして、政府は國體法改正法案、財政整理法案等の提出を見合せ講習會と併行して開催される。これが新進の士とし乍ら、政府の運営をして靈通を諮詢してある。

したがつて、大和民族の代に於いては、日本は帝國主義として靈通を諮詢して

